

第26回 藍染通信文化講座 受講申込書

お申し込みの際には…

- FAXでお申し込みの場合は、この面を送信してください。
FAX:088-626-0833
- メールでお申し込みの場合は、アドレスに下記申込書内容を本文に入力してお送りください。(記入した申込書を写真添付でも可)
メール:tuishin@cf.civic-center.jp
- 受付完了後、受講受付確認書をお送りいたします。
- 不明瞭な点がございましたら、ご遠慮なくお問合せください。
TEL:088-626-0408

(切り取り)

お名前	ふりがな
ご住所	郵便番号
連絡先	FAX() — FAX() — Mail

※個人情報について、当講座事業以外には使用いたしません。 《お申し込みありがとうございました。》

アンケートにご協力ください。

連絡確認はどこで(どこで)知りましたか?

今までに染めの経験はありますか? 初めて 何度か経験がある 趣味でしている 染めの仕事をしている

募集要項

募集案内	令和8年1月15日(木)から先着順に受付
募集人数	50人(定員になり次第締め切らせていただきます)
講座期間	令和8年3月～令和8年12月(10ヶ月)
講座回数	毎月1回で全10回
受講料	38,500円 (ガイドブック・テキスト・教材を含みます)

最初にお送りするものは次の通りです。(3月中旬発送)

- ガイドブック(アキヤマセイコ著「阿波の草染漬色!」)
- テキスト(A4判)
- 第1回目の教材(藍の種など)
- 質問用紙(10枚)
- 資料等を繕じるファイルなど

申込方法
必要事項を記入のうえ、受講申込書をFAXしていただくか、電話、メールでお申込みください。
受付ができる次第、受講受付確認書をお送りいたします。

受講料の支払方法
第1回目のテキスト等をお受け取りになるときに、代金引換でお支払ください。

※ご不明な点は下記までお問い合わせください。

[受付時間 / AM 9:00 ~ PM 5:00]

◆休館日:毎月第1火曜日、12月29日～1月2日◆

ご案内



公益財団法人
徳島市文化振興公社
〒770-0834
徳島市元町1丁目24番地
TEL (088)626-0408
FAX (088)626-0833
tuishin@cf.civic-center.jp

ホームページ <https://www.civic-center.jp/>

2026

藍

第26回
通信文化講座

募集案内



阿波の伝統工芸「藍染め」を
自宅で体験してみましょう。

はじめに

2000年より始まった藍染通信文化講座は、今回で26年目となります。これも多くの皆様が熱心に受講してくださいましたおかげと、心より感謝いたします。

この藍染通信文化講座は、当公社が徳島の特色ある文化をアピールする方法はないかと思案していたところ、公社主催の染色教室で講師をしていった故アキヤマセイコ氏からお声がけをいただき、阿波の藍染を未経験の方でも染められ、教室に来られなくても体験できることを目的として始まりました。

アキヤマ氏は、当講座のテキスト、および参考書となる「阿波の草染涙色」の著者であり、長年染色の研究に取り組むことで、様々な技法を考えられました。

カリキュラム（全10回）

3月

藍の種を植える

藍草からいろいろな色を染めるため、種を送りますので植えてください。

作り方は詳しくテキストで説明しています。実習に必要な藍を収穫してください。種は1アール分の量をお送りします。



4月

布を絞る

絞りの技法5種類を解説します。藍染のために用意しましょう。



5月

リュウキュウ藍を育てて染める

沖縄やインド、中国等で育っている藍で、多年草です。この藍は寒さに弱いので、ハウスや室内で冬を過ごし、春に外に出して挿し木で増やし、さまざまな方法で染めます。



6月

沈澱藍の作り方と染め方

①リュウキュウ藍やタデ藍を使って藍を沈澱させる方法です。図解と実習を行います。
②それ以外に新しく塩を使って沈澱させる方法を図解実習します。その液は11月に使用します。



7月

藍生葉で青を染める

藍生葉をミキサー方法、塩揉み方法等で、絹と木綿を染める実習をします。

データ用の見本布、実習用の生地をお送りします。



8月

生葉で七色を染める

①ウールの原毛や絹糸を湯漬けにして染める方法です。
②藍の生葉を発酵させて水に浸け、その液を使って染めます。



9月

すくもを作る

藍の乾燥葉を使って、少量のすくもを作ります。



10月

すくもを藍建てる

自作のすくもを使って藍建てし、染めます。



11月

沈澱藍を使って描く

沈澱藍を建て、文字や絵を描きます。



12月

藍の色止めの一つとして柿渋染

藍のさまざまな方法で7つの色を染めました。型染めの技法で、インテリアを作ります。



講座のすすめ方は…

3月から12月まで、毎月1回テキストや材料などをお送りします。

お送りするテキストやご案内するネット上の動画などを参考に、ご自分で学習していただきます。

テキストなどに、ご不明な点がございましたら、メール、FAX、郵便などで質問を受け付けます。

また、希望者の方には、現地徳島にお越しいただき、様々な実習を体験していただくスクーリングを予定しています。

運営

チーム SHIBUKOYA
(藍染通信文化講座運営委員会)

2021年発足した、アキヤマセイコ氏の技術と志を受け継いだメンバーたちで組織される当講座の運営委員会。

メンバーは徳島県内の公共施設などで染色指導を行い、アキヤマ氏の研究成果や、染色技術の普及に努めている。



協力 新居 修 氏
(新居製藍所)



明治初期より続く藍師の6代目。
2017年度「現代の名工」に選ばれる。
藍種子の提供やスクーリングなどで本講座に協力。

受講者の声

回 目等 洋子 様 (京都府 在住)

「藍草から七色を染める」この魅力的な案内パンフレットに惹かれて藍染通信文化講座を受講しました。毎月送られるテキストは、藍に対する思いと様々な藍の手仕事。藍草の扱い方によって色の出方が違うことなど興味深く読みました。春に蒔いた藍草は育って葉を収穫し、今は花が咲いて種になる時期。貴重な藍の物語を学ばせていただきました。

回 秋久保 晴 様 (千葉県 在住)

ジョギングの仲間に草木染めの先生がおり、仲間と共に色々な草木染の経験をしました。その時に綿布も染められる干し葉藍での藍染を体験し、更に藍染めについて知りたいとの願望が募り、この通信講座を受講しました。藍の育て方から、色々な藍染めの手法まで数多く知ることができて、更に深く展開できそうです。

回 山中 真奈 様 (埼玉県 在住)

自宅の庭で藍を育てて、自分なりに藍で染めていましたが、藍草から七色を染めるという言葉に惹かれて、もっと深く藍について学ぼうと思い受講しました。毎月送されるテキストと動画で、自分のペースで学べるのが良かったです。いつかは、自分で育てた藍をすくもにして、藍建てして染めることが夢です。

スクーリング風景 シビックセンター・技の館 (令和7年10月頃)

